

S07a **MAXIによるAGNのX線変動モニター観測**

杉森航介、森井幹雄、河合誠之(東工大)、上野 史郎、松岡 勝、川崎 一義、富田 洋、鈴木 素子、石川 真木(JAXA)、上田 佳宏、磯部 直樹、江口 智士、廣井和雄(京都大)、三原 健弘、小浜 光洋、杉崎 睦、中川友進、山本堂之(理研)、根来 均、中島 基樹、石渡 良二、三好 翔、小澤洋志(日本大)、常深 博、木村公(大阪大)、吉田 篤正、山岡 和貴、中平 聡志(青学大)、山内誠、大休寺新(宮崎大)、ほか全天X線監視装置チーム

MAXIは国際宇宙ステーション(ISS)の日本実験棟「きぼう」に取り付けられているX線観測装置であり、ISSの周回に合わせて92分ごとに全天を走査し、X線源の強度変動を監視する。2009年7月に打上げられ、8月に観測を開始した。MAXIに搭載されたGSC(ガス比例計数管カメラ)は、2-30 keVのエネルギー帯の全天走査型のX線観測装置としては最高の感度を持ち、今までは難しかったAGNの強度変動の観測も可能になった。本講演では、MAXIの初期観測の成果として3C 454.3やMkn 421等、特に多波長での観測が行われている天体についてMAXI/GSCの観測結果を報告し、公開されているFermi/LATによる高エネルギー線光度曲線とSwift/BATによる硬X線光度曲線、あるいは地上観測による可視光光度曲線と比較する。